



2011年7月

会員各位

日本ファイナンス学会
会長 竹原 均

第19回大会および会員総会報告

日本ファイナンス学会第19回大会は、5月14～15日の両日に早稲田大学において開催されました。宮島英昭大会委員長、プログラム委員会谷川寧彦委員長をはじめとするプロコミの皆さま、ならびに主催校の関係者のご尽力により、スムーズな大会運営が実現し、熱心な議論とともに成功裡に幕を閉じることができました。関係各位に心より感謝する次第です。今回は、応募論文60本を数え、参加者数も東日本大震災にもかかわらず400人に超えて盛況となり、たいへん喜ばしいものでした。

また、大会開催中の5月14日午後4時40分より平成23年度定例会員総会が開かれ、別添資料の各議案が審議されました。審議結果の概要は以下のとおりです。

- (1)平成22年度活動報告が資料1～4のとおり説明され、原案どおり承認されました。
なかでもIRF誌に対する日本からの投稿が依然として増えない状況が報告され、NFA会員からの積極的な投稿が期待されている旨の報告が注目されました。
- (2)平成22年度会計報告・監査報告が、提案(資料5)どおり承認されました。
- (3)平成23年度予算(資料6)が提案され、原案どおり承認されました。
- (4)次期2012年度大会は一橋大学(神田一ツ橋)で開催されることが提案され、承認されました。期日は、2012年5月26～27日が予定されておりますが、詳細は追って決定されることになりました。

以上が、大会ならびに会員総会の簡単な報告です。学会活動についてご意見ご質問等あれば事務局までお寄せいただければ幸いです。なお、8月31日に特別講演会が企画されており、講師にMilton Harris教授(ソコフ大学)、Artur Raviv教授(ノースウェスタン大学)を迎えます。近く詳細をホームページに掲載する予定です。ご期待ください。

以上

日本ファイナンス学会第19回大会
会員総会議題

日時：平成23年5月14日（土）午後16：40

会場：早稲田大学早稲田キャンパス国際会議場・井深ホール

1. 平成22年度活動状況の報告
 - ・会員状況（資料1）
 - ・学会誌の発行状況（資料2）
 - 現代ファイナンス
 - International Review of Finance*
 - ・研究観望会活動報告（資料3）
2. 第18回大会報告（資料4）
3. 平成22年度会計報告・監査報告（資料5）
4. 平成23年度予算（資料6）
5. 2012年次期大会開催校について

以上

資料 1

日本ファイナンス学会 会員状況

平成 23 年 5 月 7 日(火)

	2011 年度	2010 年度	2009 年度	2008 年度
正会員	1349 名	1363 名	1399 名	1362 名
特別賛助会員	21 社	23 社	25 社	25 社
純法人会員	29 社	28 社	29 社	29 社
法人会員合計	50 社	51 社	54 社	54 社

※海外会員 22 名

●新規加入 2011 年 5 月 7 日現在

	2011 年	2010 年	2009 年度	2008 年度
法人会員	1 社	2 社	2 社	1 社
個人会員	48 名	54 名	39 名	65 名

2011 年度に入会した法人

●法人会員 アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー

2011 年度に退会した法人

●法人会員 (株) 日本格付研究所

学会誌報告 1

『現代ファイナンス』に関する報告

- 論文投稿状況 (2010年4月～2011年3月) 合計 20本 (前年同期 19本)
(大学関係者 18(12)本、実務家 2(4)本、大学関係者と実務家の共同論文 0(3)本)
(所属は執筆時、カッコ内本数は前年同期)

- No.28 (2010年9月号)

審査対象論文数 合計 25本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 4本、掲載不可 7本、継続審査 14本)

No.28 掲載論文

大野弘明「空売り規制の株価安定化機能」

赤壁弘康／田畑吉雄「価格がネットワーク外部性の影響を受ける資産／商品に対するデリバティブの評価、ヘッジと複製戦略について」

入江和彦／蜂谷豊彦「取締役会改革と企業価値の変化」

花枝英樹／胥鵬／鈴木健嗣「日本企業の M&A 戦略－サーベイ調査による分析－」

- No.29 (2011年3月号：ただし実際の発行は2011年6月になる予定)

審査対象論文数 合計 29本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 3本、掲載不可 16本、継続審査 10本)

No.29 掲載論文

内田浩史「企業間信用の機能」

高橋慎「TOPIX 現物の Realized Volatility と Realized Range-Based Volatility の分析」

広田真一「株主主権は望ましいか？－人的資本企業のモデル分析－」

2009年度繰越金				2,569,107
[収入]	2010年度出資金	MPTフォーラム	¥2,200,000	4,400,000
		日本ファイナンス学会	¥2,200,000	
	預金利息			724
2010年度総収入				4,400,724

[支出]	「現代ファイナンス」制作費	No.28	¥2,486,976	2,486,976
	支払銀行手数料			840
2010年度総支出				2,487,816

次年度繰越金 4,482,015

*「現代ファイナンスNo.29」は2011/6頃に発行予定

学会誌報告 2

International Review of Finance に関する報告

2010 年度以降、以下の 5 号分が発行された。

International Review of Finance Vol. 10, No. 1, March 2010

配布年月：2010 年 4 月

部数：1650 部

Contents:

SPECIAL ISSUE ON FINANCIAL CRISES AND GLOBAL MARKET INTEGRATION: PART

I Issue Editor: Michael Lemmon and Steven Ongena

Franklin Allen and Elena Carletti “An Overview of the Crisis: Causes, Consequences, and Solutions”

Frank Heyde and Ulrike Neyer “Credit Default Swaps and the Stability of the Banking Sector”

Hans Gersbach and Jan Wenzelburger “Sophistication in Risk Management, Bank Equity, and Stability”

James R. Brown, Lauren C. Lax and Bruce C. Petersen “Financial Market Crisis and Natural Resource Production”

Inessa Love and Rida Zaidi “Trade Credit, Bank Credit and Financial Crisis”

International Review of Finance Vol. 10, No.2, June 2010

配布年月：2010年7月

部数：1650部

Contents:

SPECIAL ISSUE ON FINANCIAL CRISES AND GLOBAL MARKET INTEGRATION: PART

II *Issue Editor: Michael Lemmon and Steven Ongena*

Stavros Peristiani and João A.C. Santos *"Has the US Bond Market Lost its Edge to the Eurobond Market?"*

Daniel Rösch and Harald Scheule *"Downturn Credit Portfolio Risk, Regulatory Capital and Prudential Incentives"*

Hans Degryse, Muhammad Ather Elahi and Maria Fabiana Penas *"Cross-border Exposures and Financial Contagion"*

Jung-Hyun Ahn *"Loan Sales and Loan Market Competition"*

Apanard P. Angkinand, Wanvimol Sawanggoenyuang and Clas Wihlborg *"Financial Liberalization and Banking Crises: A Cross-Country Analysis"*

International Review of Finance Vol. 10, No. 3, September 2010

配布年月：2010年9月

部数：1650部

Contents:

Shinhua Liu *"Equity Option and Underlying Stocks' Behavior: Further Evidence from Japan"*

Jhinyoung Shin and Rajdeep Singh *"Corporate Disclosures: Strategic Donation of Information"*

Asjeet S. Lamba and Vivek M. Miranda *"The Role of Executive Stock Options in On-Market Share Buybacks"*

Clinton Feuerherdt, Stephen Gray and Jason Hall *"The Value of Imputation Tax Credits on Australian Hybrid Securities"*

International Review of Finance Vol. 10, No.4, December 2010

配布年月：2010年12月

部数：1650部

Contents:

Yan-Leung Cheung, Aris Stouraitis and Weiqiang Tan *"Does the Quality of Corporate Governance Affect Firm Valuation and Risk? Evidence from a Corporate Governance Scorecard in Hong Kong"*

Iuliana Ismailescu and Ben Branch *"Managerial Performance and Closed-End Country Fund Premiums: A Lead or Lag Relationship?"*

Tom Berglund and P. Joakim Westerholm *"Foreign Investors' Reaction to lower Profitability—The Role of Information Asymmetry"*

William B. Francis and Matthew Osborne *"On the Behavior and Determinants of Risk-Based Capital Ratios: Revisiting the Evidence from UK Banking Institutions"*

International Review of Finance Vol. 11, No.1, March 2011

配布年月：2011年5月

部数：1650部

Contents:

Ivo Welch *“Two Common Problems in Capital Structure Research: the Financial-debt-to-Asset Ratio and Issuing Activity Versus Leverage Changes”*

Xin Chang and Sudipto Dasgupta *“Monte Carlo Simulations and Capital Structure Research”*

Sudipto Sarkar *“Optimal Expansion Financing and Prior Financial Structure”*

Julie Fitzpatrick and Joseph P. Ogden *“The Detection and Dynamics of Financial Distress”*

Wolfgang Bessler, Wolfgang Drobetz and Matthias C. Grüninger *“Information Asymmetry and Financing Decisions”*



2011年5月14日

研究観望会活動報告

代表幹事 本多 俊毅

2010年度における研究観望会は、第18回（10月）および第19回（3月）と2回開催されました。あらまし以下のとおりですが、熱心な会員が集まり、盛況裡に終了するとともに、日常的な研究交流に資することができました。

第18回研究観望会

日 時： 2010年10月1日（金）

テーマ： 「企業間信用の実態と機能—コーポレートファイナンスの視点から」

報告者： 内田 浩史（神戸大学大学院経営学研究科）

会 場： (社)金融財政事情研究会第一会議室
東京都新宿区南元町19

出 席： 46人（個人39人、法人関係7人）（受付ベース 全70人）

第19回研究観望会

日 時： 2011年3月2日（水）

テーマ： 「国際金融市場の依存構造における非対称性と長期トレンド」

報告者： 沖本 竜義（一橋大学 国際企業戦略研究科）

会 場： (社)金融財政事情研究会第一会議室
東京都新宿区南元町19

出 席： 70人（個人50人、法人関係20人）（受付ベース 全98人）

以上

資料 4

日本ファイナンス学会 第 18 回大会（上智大学）報告（案）

第 18 回大会運営委員会
委員長 齊藤 進
プログラム委員長 川西 諭

2010 年 5 月 22～23 日開催された第 18 回大会は、多数の発表論文数と参加者数を得て、成功裡に終了することができました。関係各位に感謝申し上げますとともに、大会概要について、以下のとおりご報告申し上げます。

1 参加状況

参加申込：534 名（前年比 11.25%増、54 人増）（うち個人 374、法人 79、特別賛助 81）
当日出席者：506 名（前年比 0.39%減、2 人減）（うち個人 376、法人 69、特別賛助 61）

第 18 回大会における事前申込数が前回 17 回大会（青山学院）を大きく上回ったのですが、実際には参加者数は前回大会と同様の横ばいにとどまりました。しかし、規模的には高い水準を維持しており、たいへん盛況でした。

2 論文報告状況

研究報告数：69（前年比 6 増）、応募数 70（同 4 増）。

応募論文数、報告数とも前回を上回り、第 15 回大会（慶応）、第 14 回大会（東大）に次ぐ高い水準でした。報告数が第 17 回大会より 6 本多い状態でしたので、報告会場（教室）を 5 会場設置しました。また、大会企画として次の特別講演が開催され、好評でした。

“Clairvoyant Value and Market Efficiency”

Robert D. Arnott, Chairman and Funder, Research Affiliates LLC

なお、非会員外国人による報告参加（英語）は、今回はありませんでした。

3 会計報告（別紙大会収支表参照）

(1)総収入は、例年並みの 436,000 円にとどまりました。広告収入 10 万円（2 社パンフ配布料）と懇親会費、予稿集売上に支えられたものでした。一方、総費用は 3,848,786 円と前年比 615,923 円増加しましたので、学会会計負担（赤字額）は 3,412,786 円と第 14 回大会に次ぐ記録になりました。

(2)支出の主要費目についてみると、概ね平年なみでしたが、会場費がかなり高く、667,100 円と例年平均のほぼ倍でした。その他の特徴は以下のとおりです。

- ・第 15 回大会から始まった Web サイトにおけるプログラムや論文のアップロード費用は昨年なみの 84,210 円が計上されましたが、以降、経常的費用となることでしょう。
- ・懇親会をはじめ印刷費等の支出合計は、例年大会並みの水準にとどまりました。各費目別の詳細については別紙大会収支表のとおりです。

以上

日本ファイナンス学会第18回大会収支
(上智大学、2010年5月22～23日)

収入

懇親会費	320,000
予稿集収入	16,000
広告収入	100,000

収入合計	436,000
------	---------

支出

各種印刷費		1,407,329
予稿集印刷費	777,000	
予稿集用紙代	350,365	
大会プログラム(デザイン費含)	128,880	
出欠葉書(発送作業費含)	85,564	
会員総会資料	27,720	
特別講演資料	32,760	
その他コピー	5,040	
郵送料等		176,316
大会案内送料	106,456	
セッション関係者宛案内送料	7,360	
大会出欠用返信葉書	62,500	
Webプログラムページ作成費		84,210
特別講演料		100,000
備品購入費		45,969
会場費		667,100
交通費		17,630
飾生花		20,000
休憩室用飲料等一式		25,782
アルバイト料		514,000
学生	364,000	
社会人	150,000	
弁当代		108,100
懇親会費		606,930
関係者懇親会費		75,420

支出合計	3,848,786
------	-----------

収支差	3,412,786
-----	-----------

資料 5

平成 23 年 5 月 14 日

会 員 各 位

日本ファイナンス学会
監事 太田 亘、倉田 勲
和田賢治

平成 22 年度会計報告ならびに監査について

1 平成 22 年度の総収入は、5007 万円（61 万円増、1.2%増）でほぼ前年並みでした。しかし、内訳をみると、基礎的な収入である会費収入は 1781 万円と前年度比 136 万円減、7.1%減になっており、たまたま前年繰越金が増えていたことにより支えられた形になっております。とくに主要な個人会費が、払い込みの遅れから 111 万円減少しています。これは前年度比 8.2%減に相当します。法人・特別賛助会費の前年度比 25 万円の減少もありますが、個人会費の今後の推移がとりわけ注目されます。

2 一方、支出総額は 1926 万円（142 万円増、7.96%増）と増加しましたが、円高下で外貨を 2 万ドル（170 万円）購入したことが主因となっております。発送費、郵送料、通信費、機関誌代、印刷費等の経常的主要経費は全般的に低下しており、22 年度支出は、外貨購入を除けば、手堅い運営になっております。

3 今後注意しなければならないのは、(1)ホームページの改善（電話・通信費）は引き続き行う必要がありますし、(2)IRF が定期的に発行されるようになってきたので支払準備としての外貨購入が必要になることでしょう。なお、22 年度末現在、外貨勘定の残高は、2 万ドル増えて US\$80,638-となっております。

4 大震災と長期化した不況のもと、個人会員のみならず法人会員ならびに特別賛助会員の経済状況は、なお低迷が続くとみられますので、会計事情は依然きびしい状況にあります。不断に財政維持のための措置を考えていく必要があります。

以上、所見を述べるとともに、会計処理については正確かつ適切に処理されていることを承認し、適正に監査したことを報告します。

以上

日本ファイナンス学会平成22年度 決算会計報告(案)
(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	31,617,975	H 郵送料(郵便、宅配便等)	1,597,685
B 会費	17,816,000	I 電話・通信費(プロバイダー費用合)	962,060
正会員(19年度以前会費)	8,000 × 2 = 16,000	J 発送作業費	223,046
正会員	10,000 × 505 = 5,050,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 × 29 = 1,450,000	K 学会案内等印刷費	90,003
特別賛助会員	200,000 × 16 = 3,200,000	L 理事会運営費	275,926
	300,000 × 1 = 300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 × 1 = 500,000	M 封筒・用箋等作成費	238,245
自動引落分	7,300,000	N 第18回大会費	3,848,786
C 第18回大会収入	436,000	(案内・報告要旨印刷その他)	
懇親会費	320,000	O 第19回大会準備費	160,828
パンフレット配布料(2件)	100,000	P 学会誌作成費	5,786,583
予稿集売上	16,000	現代ファイナンス	2,200,000
D 円預金利息	8,695	International Review of Finance	3,586,583
前期 H22.8.23	5,686	Q 事務用品購入費	12,256
後期 H23.2.21	3,009	(PCソフト・プリンタートナー等)	
E 学会誌売上	174,700	R アルバイト料	2,906,090
現代ファイナンス	151,030	S 研究親望会費(2回)	1,132,915
IRF	23,670	(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
F 大会予稿集売上	24,000	T 手数料支払	133,850
G その他	0	(自動引落料、送金手数料等)	
		残高証明発行手数料	630
		みずほファクター手数料(4回)	114,050
		振込、送金手数料	19,170
		U 外貨預金購入(\$1=¥85.33 \$20,000)	1,706,600
		V その他	190,000
		アナ協H22会費	50,000
		会費返金(14件)	140,000
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計	¥50,077,370	H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U+V 日本円合計	¥19,264,873
		残 高	¥30,812,497 *
		*内訳	
		預金(みずほ銀行 H23.3.31)	¥29,501,985
		現金有高	¥1,310,512


(次ページへ続く)


収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$60,625.96		
b 円勘定より振替(10/8/25、外貨普通預金)	20,000.00		
c 外貨普通預金利息収入	2.43		
前期 H22.8.23	0.82		
後期 H23.2.21	1.61		
d 外貨定期預金利息収入(2口)	9.64		
(1035829)			
H22.6.2	1.22		
H22.9.2	1.22		
H22.12.2	1.20		
H23.3.2	1.18		
(9609815)			
H22.6.2	1.22		
H22.9.2	1.22		
H22.12.2	1.20		
H23.3.2	1.18		
a+b+c+d		US\$合計	US\$0.00
US\$合計	US\$80,638.03		
		残 高	US\$80,638.03 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H23.3.31)	40,638.03
		定期預金(みずほ銀行 H23.3.31)	40,000.00


平成23年 4月 28日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

袁田 野 

太田 亘 

和田 賢治 

残高証明書

日本ファイナンス学会 様

平成 23 年 3 月 31 日 現在

金額合計	¥ 29,501,985 ※
------	----------------

種類	番号	金額 (円)	摘要
普通預金	1743750	29,501,985 以下余白	

貴ご名義勘定の残高は上記の通りでございます。

平成 23 年 4 月 1 日

(注) この証明書の金額は訂正いたしません。

預金の残高には他店券によるご入金分も含まれております。

株式会社みずほ銀行
四谷支店
038677



参考

日本ファイナンス学会平成21年度 決算会計報告 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	29,041,969	H 郵送料(郵便、宅配便等)	1,612,010
B 会費	19,180,000	I 電話・通信費(プロバイダー費用含)	1,074,456
正会員(19年度以前会費)	8,000 × 15 = 120,000	J 発送作業費	447,354
正会員	10,000 × 600 = 6,000,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 × 26 = 1,300,000	K 学会案内等印刷費	507,094
特別賛助会員	200,000 × 18 = 3,600,000	L 理事会運営費	275,783
	300,000 × 1 = 300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 × 1 = 500,000	M 封筒・用箋等作成費	283,080
自動引落分	7,360,000	N 第17回大会費	3,236,863
		(案内・報告要旨印刷その他)	
C 第17回大会収入	1,010,000	O 第18回大会準備費	173,772
大会補助金	500,000	P 学会誌作成費	6,035,217
懇親会費	382,000	現代ファイナンス	2,200,000
パンフレット配布料(2件)	100,000	International Review of Finance	3,835,217
予稿集売上	28,000	Q 事務用品購入費	29,631
D 円預金利息	11,155	(PCソフト・プリンタートナー等)	
前期 H21.8.17	5,245	R アルバイト料	3,315,040
後期 H22.2.22	5,910	S 研究観望会費(1回)	667,872
E 学会誌売上	168,940	(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
現代ファイナンス	153,020	T 手数料支払	134,917
IRF	15,920	(自動引落料、送金手数料等)	
F 大会予稿集売上	39,000	残高証明発行手数料	630
G その他	10,000	みずほファクター手数料(4回)	114,617
SSL申込キャッシュバック	10,000	振込、送金手数料	19,670
		U その他	50,000
		アナ協H21会費	50,000
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計	¥49,461,064	H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U 日本円合計	¥17,843,089
		残 高	¥31,617,975 *
		*内訳	
		預金(みずほ銀行 H22.3.31)	¥31,527,354
		現金有高	¥90,621


(次ページへ続く)


収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$60,596.66		
b 外貨普通預金利息収入	1.94		
前期 H21.8.17	1.08		
後期 H22.2.22	0.86		
c 外貨定期預金利息収入(2口)	27.36		
(1035829)			
H21.6.2	10.08		
H21.9.2	1.22		
H21.12.2	1.20		
H22.3.2	1.18		
(9609815)			
H21.6.2	10.08		
H21.9.2	1.22		
H21.12.2	1.20		
H22.3.2	1.18		
a+b+c			
US\$合計	US\$60,625.96	US\$合計	US\$0.00
		残 高	US\$60,625.96 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H22.3.31)	20,625.96
		定期預金(みずほ銀行 H22.3.31)	40,000.00


平成22年 5月 14日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

倉 好 勤 

亀坂 安紀子 

竹澤 直哉 

資料 6

平成 23 年 5 月 14 日

日本ファイナンス学会
会 員 各 位

日本ファイナンス学会

平成 23 年度予算について

1 平成 23 年度学会予算（別紙参照）は、前年度繰越金が 3081 万円（前年度比 6.09%増）と、よい水準でスタートすることができるわけですが、前年度の会費収入がかなり減少したこともあり、今年度の会費収入は手堅く 1800 万円（前年度比 1.83%増）を見込みました。その結果、その他を加えると合計 4931 万円が見込まれることとなります。これは、現下の不況下にあっても、これまでの堅調な個人会費収入状況から、個人会員収入を 1250 人分見積ることができる一方、法人会員・特別賛助会員についてはまことに厳しい状況ですが、若干減少はするものの、ほぼ前年なみの収入は見込めるとみためです。

2 一方、支出は、会費収入とバランスすることをめざし、1800 万円を見込みました。ホームページ関連経費の増加をはじめ、入会案内、会員名簿等の印刷などが予定され、印刷費、発送費等も前年並みに見込まれますが、経費節減と円高メリットで可能となると見込みました。支出水準としては、ほぼ例年なみの支出となります。

3 今年度の外貨購入は、準備金として直接 US\$20,000- (170 万円、@85-) 購入するとともに、学会誌 IRF 購入費 350 万円も US\$に転換され送金されますので、US\$勘定の収入に合計して計上しました。この結果、繰越金と合わせ外貨収入は US\$141,888-となります。一方、IRF 一年分購入費 41,250-

4 以上から、翌年度への繰越金は 3131 万円（1.62%増）とほぼ前年度並に見込まれます。平成 23 年度予算がこのとおりの結果になると、会費収入（個人+法人）と通常経費はほぼ均等するプライマリーバランスを維持しつつ、繰越金を若干増やすこととなります。しかし、震災と不況下の影響から、会費収入の減少もあるかもしれませんし、諸活動の活発化によっては、さらに経費がかかるようになりますので、通常経費節減、収入増を不断に心がけていかなければなりません。

以上

別紙

日本ファイナンス学会平成 23 年度
予 算 書(案)

平成 23 年 5 月 14 日

収入		支出	
<円勘定>		<円勘定>	
A 前年度繰越金	30,812,497	E 郵送料	1,500,000
		F 電話・通信費	1,200,000
B 会費	18,000,000	G 発送作業費	250,000
10,000 × 1,250 =	12,500,000	H 学会案内等印刷費	300,000
50,000 × 30 =	1,500,000	I 理事会運営費	250,000
200,000 × 16 =	3,200,000	J 封筒・用箋等作成費	250,000
300,000 × 1 =	300,000	K 学会誌	
500,000 × 1 =	500,000	「現代ファイナンス」誌	2,200,000
C 出版物売上等	500,000	IRF誌	3,500,000
		L 第 19 回大会費用	2,500,000
		M 事務用品購入費	50,000
		N 研究観望会経費	1,200,000
		O アルバイト料	2,900,000
		P 手数料支払い	150,000
		Q 外貨購入費	1,700,000
		R その他	50,000
A+B+C	49,312,497	E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q	18,000,000
		残 高 (円)	31,312,497
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
A' 前年度繰越金	80,638.03	D' 支出	41,250.00
B' 新規外貨購入	61,250.00		
A'+B'	141,888.03	D'	41,250.00
		残 高 (ドル)	US\$ 100,638.03

